

E C C 日 本 語 学 院

自己点検及び評価の内容報告書

2024年6月1日
ECC日本語学院神戸校
自己評価委員会

1. 学校の理念・教育目標

【教育理念】

本学は、日本語を学習する必要性と意欲のある人を対象として、日本語を理解し表現する能力を養成し、日本文化や社会についての理解を深め、国際的な相互理解を培うことを目標とする。

【コースの目標】

本コースは、日本の大学、大学院または専門学校への進学を含め、様々な目的により日本語学習を必要とする人を対象とする。従って、読む・書く・聞く・話す、の4技能をバランスよく習得できるよう、総合的な日本語力の養成を目指す。

理解度の目安として、2年コースについては、日本語能力試験N1合格、1年9月コース、1年6月コースについては、N2合格、1年コース、1年3月コースについては、N3合格をおくが、理解力養成のみではなく、表現力、応用力を含めた総合的な日本語力の習得を目指す。

「総合教育機関 ECC 建学の理念」

本学は外国語教授を通じて、近代的なセンスと国際的な感覚を持った社会に実際に活躍できる有用な人材を育成しようとするものである。以て国際間の人々の交流と相互理解を促進し、世界の文化向上とその恒久平和樹立に寄与したい。

2. 2024年の重点的取り組み目標と計画

1. 日本語を学ぶ留学生に対し、検定取得、進学、就職等、希望する進路の支援を行う。

- (1) 学習者が学ぶ意欲を維持し、かつ着実に力をつけていけるような段階別カリキュラムの設定
- (2) 定期的な進路説明会及び個別カウンセリングの実施
- (3) 面接・志望理由書作成の指導
- (4) 自宅学習をサポートするためのeラーニングの提供と質問受付体制の強化

2. 日本人との交流の場の提供

- (1) 日本文化が体験できるイベントの設定
- (2) 校外学習の提供
- (3) スタッフ・講師の学生への積極的な声掛けと生徒間の交流の場とする「にほんごかいわの会」の実施

3. 日本における生活と学習のルール、マナーについての指導を徹底

- (1) 異なる文化や習慣を持つ外国人学生に対し、入国オリエンテーションや毎週のホームルームで、日本で生活する上でのルールやマナーを説明する。防犯、交通ルールなど、テーマによっては外部講師を招き、適切に指導する。
- (2) 学生の健康管理及び生活環境の管理を徹底するとともに、問題を抱える学生には十分なケアを行う。
- (3) 賞罰の明確な提示

4. 適正校として告示基準を遵守し、信頼される学校運営を目指した取り組み

引き続き留学生の生活・進路指導を通し学校内での成績(小テスト、期末試験、出席率)及び日本留学試験、日本語能力試験において信頼される実績を上げる。

3.評価項目の達成および取り組み状況

(1)教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1 学校の理念・教育目標は定められているか	④ 3 2 1
2 本年度の教育目標・計画は定められているか	④ 3 2 1
3 学校の理念・教育目標は教職員に周知されているか	④ 3 2 1
4 学校の理念・教育目標について、入学を検討している学生・保護者、留学仲介業者に告知する努力をしているか	④ 3 2 1
*達成状況、課題、改善計画等 入学希望者と仲介業者に対し、オンライン面接を通して、学校のルール、教育方針の説明を行うとともに、学生の日本語学習の目的、日本語能力を確認している。現地仲介業者には通訳として面接に同席してもらい、学生は学校方針を充分理解の上入学しているため、入国後のトラブルが減った。教職員に対しても、講師便覧説明会を定期的に行い、方針を共有することで、理念と教育目標の周知徹底をはかっている。	

(2)学校組織

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
5 設置者・設置代表者・経営担当役員の適合性	④ 3 2 1
6 組織が適切に運営されているか	④ 3 2 1
7 校長・教務主任の適合性はあるか	④ 3 2 1
8 校長・教務主任・専任教員・非常勤教員の職務内容と責任基準は明確か	④ 3 2 1
9 教育目標達成のための知識と能力があるか	④ 3 2 1
10 生活指導担当者の職務内容と責任基準は明確か	④ 3 2 1
11 入管事務担当者の職務内容と責任基準は明確か	④ 3 2 1
12 取次申請者の配置	④ 3 2 1
13 教員の採用条件と雇用条件が明確である	④ 3 2 1
14 職員の採用条件と雇用条件が明確である	④ 3 2 1
15 教員の研修が行われている	④ 3 2 1
16 職員の研修が行われている	④ 3 2 1
*達成状況、課題、改善計画等 告示校の条件を満たす校長、生活指導担当者、入管事務担当者、教務主任、専任教員、非常勤教員を配置している。変更があった場合は入管に報告をしている。職員は3ヶ月に1回、業務研修、理念研修を行い、業務の質向上を図っている。15について、入社研修をはじめ定期的に授業オブザーブを実施し、各教員が教育目標に沿い、統一された進め方で授業が実現できているかを確認し、必要あれば再オブザーブと研修を行っている。	

(3)教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
17 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
18 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
19 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
20 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
21 成績評価・単位認定、進級・修了判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
22 進学に対する指導体制はあるか	④ 3 2 1
23 告示校条件を満たす教員数を確保しているか	④ 3 2 1
24 告示校条件を満たす専任教員を確保しているか	④ 3 2 1
25 適切なクラス編成を行っているか	④ 3 2 1
26 教員に対して、指導に必要な情報を伝達しているか	④ 3 2 1
27 修了証書授与の条件について、説明、明示されているか	④ 3 2 1
28 授業にあたってはロールブックに出席状況、成績状況が記載されているか	④ 3 2 1
29 授業にあたって学生からの要望を聞く場を設けているか	④ 3 2 1
* 達成状況、課題、改善計画等 19 カリキュラムは各講師に任せることなく、学校教務が達成目標、進度、学習課題を策定し、全講師に共有している。 21 学生の成績評価に関して、評価基準に基づき2名以上の講師が客観的に評価し、公平性に努めている。 29 学期開始後3週間ほどで学生全員に個別カウンセリングを行い、今後の学習目標を個別に伝達するとともに、学生からの要望も丁寧に拾い、授業の品質そして満足度向上に努めている。	

(4)成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
30 日本語能力試験の合格率の向上を図り、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
31 進学希望者の全員進学を目指し、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
32 日本留学試験の成績向上を図り、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
33 その他学生が望む卒業後進路についてのサポート体制があるか	④ 3 2 1
* 達成状況、課題、改善計画等 日本語能力試験の合格率向上を目的として、授業に加え、eラーニングを導入し、自宅学習の充実を図っている。 今後日本留学試験の受験者を他科目受験も含め増やしていくことが課題。 修了生のうち、進学希望者は全員大学もしくは専門学校に決定。就職希望者も全員就職先が決定した。 日本での進学・就職を希望する学生については、学校選びの段階から入学後の手続きまで、各指導担当者を中心にいつでも相談ができるサポート体制を整えている。	

(5)学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
34 入学時に入国オリエンテーションを行い入管知識・日本の法律について指導しているか	④ 3 2 1

35 入学時に生活オリエンテーションを行い学生生活について指導をしているか	④ 3 2 1
36 進路・就職に関する担当者は決まっているか	④ 3 2 1
37 進学希望の学生に対して、進路決定までのながれについて説明がされているか	④ 3 2 1
38 学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
39 学生の健康診断は定期的に行なっているか	④ 3 2 1
40 新入生に対しての住宅の提供は十分に行なわれているか	④ 3 2 1
41 アルバイトに関する指導及び支援を行っているか	④ 3 2 1
42 交通事故等での保険等の手続き支援を行っているか	④ 3 2 1
<p>* 達成状況、課題、改善計画等</p> <p>入学時だけでなくホームルームを設定し年間を通して、日本のルールやマナー、災害時の行動や連絡の流れについても指導を行っている。アルバイトの時間管理、業種の確認なども定期的に行っている。</p> <p>42 学生全員傷害保険に加入しており、不慮の事故の際、適切に対応できるよう備えている。</p>	

(6)教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
43 校舎校地は告示校の条件を満たしている	④ 3 2 1
44 教室は、学習に適した環境である	④ 3 2 1
45 自習室が備わっている	④ 3 2 1
46 学生用の図書が整備されている	4 ③ 2 1
47 防災に対する体制は、整備されているか	④ 3 2 1
48 避難訓練は定期的に行われているか	④ 3 2 1
49 学校近隣の避難所などの情報提供は行われているか	④ 3 2 1
<p>* 達成状況、課題、改善計画等</p> <p>学生用の図書についてはさらなる充実をはかっていくのが課題である。オープンスペースに個別ブースを設置し、授業終了後、夜間まで学習できる環境を用意している。</p> <p>神戸はかつて阪神大震災の被害を受けた都市でもあり、防災や避難訓練の際には映像等も利用し、ハザードマップも校舎内に掲示するなどして、防災への意識を高めるよう努めている。</p>	

(7)学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
50 理念・教育目標に沿った学生の受け入れ方針を決め、募集活動を行っているか	④ 3 2 1
51 入学希望者に学校について、入学手続きについての情報が提供されているか	④ 3 2 1
52 入学選考料・入学金・学費についての金額、納付時期について説明がされている	④ 3 2 1
53 学費の返却規定が定められ、募集要項・ホームページ等に記載されている	④ 3 2 1
54 海外のエージェントの選択にあたっては慎重に行われているか	④ 3 2 1
55 入学選考にあたっては、選考方法が定められているか	④ 3 2 1
56 提出された書類は慎重に審査を行っているか	④ 3 2 1

* 達成状況、課題、改善計画等

入学希望者については、選考を丁寧に行い、日本語学習目的が明確で、かつ日本語能力を含め、当校の選定基準を満たした学生のみ受け入れを行っている。オンライン面接では、通訳を介し、理念、教育目標、学校のルール、学費、生活費等に関し説明を行っている。

54 海外エージェント選定については面接を行い、学校の所在、実績を確認し、さらに紹介された学生の学習状況を見ながら、継続して取引を行うかどうかを慎重に判断している。

入学選考は入国の半年以上前に実施するため、入国時には日本語力が維持されていないことが多い。入国まで日本語学習を意識して継続するよう、定期的に学習状況をチェックする取り組みを検討したい。

(8) 入国・在留関係に関する指導及び支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
57 入管業務担当者は、研修に出席すること等により新しい情報を取得している	④ 3 2 1
58 入管法上の留意点について学生に指導している	④ 3 2 1
59 在留に関する情報を学生に伝達している	④ 3 2 1
60 新生が速やかに入学後の在留カード登録を行なうように指導している	④ 3 2 1
61 新生が速やかに健康保険に加入するように指導している	④ 3 2 1
62 帰国を控えた学生に帰国時の手続きについて指導をしている	④ 3 2 1
63 不法在留者、資格活動違反者を発生させていない	④ 3 2 1

* 達成状況、課題、改善計画等

59 入国した学生には、理解できる言語を併用しながら入国オリエンテーションを行い、入管法上の手続きについて指導している。職員が同行して在留カードの住所登録、国民健康保険の加入、銀行口座の開設を行っている。資格外活動についての注意事項や経費支弁書に基づき送金が行われているかなども確認し、指導している。ビザの更新時、日本語学習の修了時、大学等への進学時の手続きについても説明会を実施し、入管法に則った手続きに漏れがないよう最大限の指導に努めている。

(9) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
64 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
65 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1
66 財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
67 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

* 達成状況、課題、改善計画等

中長期的に安定した経営基盤を構築するために、教務内容の充実を図りながら、経費削減努力も併せて行っている。予算・収支については、取締役会で承認された中期経営計画、年度計画に基づき執行している。財務についての会計監査は、内部監査室により行われており、取締役会にて報告している。

(10) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
68 関係法令等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1

69 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
70 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
71 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1
*達成状況、課題、改善計画等 「個人情報の取り扱い」および「情報セキュリティ」については、社内にガイドラインが定められ、職員全員が遵守する体制が構築されている。	

(11) 地域貢献・社会貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
72 日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
73 学生ボランティア活動への支援を行っているか	4 ③ 2 1
74 公開講座等を実施しているか	4 3 ② 1
*達成状況、課題、改善計画等 KICCや神戸市地域労働局の方々と協力し、今後はボランティア活動や地域活動への参加を増やしていきたい	

4. 自己点検の実施時期・方法・実施体制

(1) 実施時期

年に1度、6月に実施。

(2) 実施方法

ECC 日本語学院神戸校 自己評価委員会を代表して校長が実施、設置代表者及び経営担当役員への報告、承認後、学院のホームページを通じて公表している。

(3) 実施体制

教務主任、事務職員代表者による点検実施後、校長が再度点検し、最終判断をする。速やかに設置代表者及び経営担当役員へ報告。

以上

2023年度 課程修了者の日本語能力習得状況等

作成年月日: 2024 年 6 月 27 日

日本語教育機関名: ECC日本語学院神戸校

設置者名: 株式会社 ECC

基準該当者割合 ②÷(①+③)	100.0%
課程修了者数 (※1、※2) ①	60 名
退学者	0 名
基準該当者合計数 (実人数) ②	60 名

基準該当者の各内訳	総合コース
a. 大学等への進学者の数 ※我が国での進学に限り、非正規生は除く。	46
b. 入管法別表第一の一の表若しくは二の表の上欄の在留資格(外交、公用及び技能実習を除く。)への変更を許可された者の数	3
c. 「日本語教育の参照枠」のA2相当以上のレベルであることが試験その他の評価方法により証明されている者の数	11